

令和5年度 埼玉県社会福祉事業団 事業報告書

1 本部事務局

理事会・評議員会の運営及びその決定に基づく各事業の調整、人事、財務を適切に実施するとともに、県・市町村等との協議・連絡調整を行った。

1 理事会・評議員会の開催

(1) 理事会

	開催日等	決議事項
第1回	<ol style="list-style-type: none"> 1 日時 令和5年6月7日(水) 13:30~14:10 2 会場 埼玉県県民健康センター 3 出席理事 理事総数8名中6名 	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度事業報告及び決算について 2 理事候補者の選定について 3 監事候補者の選定について 4 会計監査人の再任について 5 評議員候補者の選定について 6 評議員選任・解任委員会の招集について 7 令和5年度定時評議員会の招集について
第2回	<ol style="list-style-type: none"> 1 日時 令和5年8月7日(月) 13:30~13:50 2 方法 Zoomによるオンライン開催 3 出席理事 理事総数8名中6名 	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者支援施設「皆光園」の敷地の取得に係る市有財産売買仮契約の締結について
第3回	<ol style="list-style-type: none"> 1 日時 令和5年11月8日(水) 13:30~14:15 2 方法 Zoomによるオンライン開催 3 出席理事 理事総数8名中7名 	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団諸規程の一部改正について 2 評議員候補者の選定について 3 評議員選任・解任委員会の招集について
第4回	<ol style="list-style-type: none"> 1 日時 令和6年3月28日(木) 13:30~14:30 2 会場 埼玉教育会館 3 出席理事 理事総数8名中7名 	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度補正予算について 2 指定共同生活援助事業所(グループホーム)嵐山ハムの閉所について 3 認可保育所「嵐山しらこぼと保育園」の定員の変更について 4 令和6年度事業計画及び予算について 5 社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団定款の変更について 6 社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団諸規程の一部改正について 7 指定管理に係る年度協定の締結について 8 業務委託契約の締結について 9 役員賠償責任保険の契約の締結について 10 理事候補者の選定について 11 施設長等の選任について

(2) 評議員会

	開催日等	決議事項
第1回	1 日時 令和5年6月23日(金) 13:30~14:40 2 会場 埼玉教育会館 3 出席評議員 評議員総数16名中10名	1 令和4年度事業報告及び決算について 2 理事の選任について 3 監事の選任について
第2回	1 日時 令和6年3月28日(木) 15:00~16:15 2 会場 埼玉教育会館 3 出席評議員 評議員総数16名中13名	1 令和5年度補正予算について 2 令和6年度事業計画及び予算について 3 社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団定款の変更について 4 役員及び評議員の報酬等に関する規程の一部改正について 5 理事の選任について

2 監査の実施

(1) 監事監査

実施日	受 検 施 設
5月24日(水)	本部事務局
5月25日(木)	本部事務局(いわつき、嵐山郷、そうか光生園、障害者交流センター、あすなる学園)

(2) 会計監査

公認会計士を監査人とする会計監査を実施し、会計書類の正確性と経営の透明性の確保に努めた。

3 各施設の管理

施設長会議(毎月1回)や施設巡回指導などを通じて、理事会が決定する事業計画を円滑に推進させるとともに、各施設で生じた課題等に対処した。

(1) 指定管理事務の円滑な推進

前年度の事業報告及び翌年度の事業計画、その他指定管理業務に係る書類の提出など、指定管理者事務を円滑に推進した。

(2) 自主経営施設の健全な運営

効率的な施設運営を行うとともに、施設の利用率向上に努め、事業の継続やサービス向上に必要な財源を確保し、健全な経営基盤の確立を進めた。

(3) 既存施設の改築

障害者支援施設皆光園の改築に係る新棟建設工事を実施した。

(4) 児童の自立支援

上里学園、おお里及びいわつきの児童養護施設において、①就職に向けた社会・就労体験事業(企業での就労体験)、②地域サポーターによる進路(就職・進学)支援事業、③施設退所後のアフターケアの3つの事業を実施した。

また、大学等進学を希望する児童に対する経済的な支援として、児童養護施設入所児童大学等進学支援資金給付要綱に基づき、申請のあった児童について速やかに対応を行った。

(5) 危機管理体制の強化

事故防止やヒヤリハットの取組を進めるとともに、役員や本部職員が各施設を巡回し、夜間時の職員配置や処遇状況、利用者支援上の問題点や兆候の把握状況などを点検・指導した。

(6) 利用者の権利擁護

全施設において利用者の権利擁護と虐待防止を徹底するため、全職員を対象としたセルフチェックを実施するとともに、権利擁護研修を開催した。

4 人事管理

(1) 正規職員の職種別の現員状況

令和6年3月31日現在(人)

区分	定数	事務職	支援員等	栄養士	医師	歯科医師	看護師	歯科衛生士	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	理学療法士	聴能訓練等	合計
計	582	68	418	10	3	5	37	7	2	0	0	3	4	557

※ 欠員の内訳：医師1人、臨床検査技師2人、放射線技師1人、理学療法士1人、支援員12人、看護師8人

(2) 令和5年度新規採用者

(人)

職種	支援員	看護師	歯科衛生士	聴能訓練	合計
人数	39	3	1	1	44

(3) 令和5年度退職者

(人)

退職理由	定年	勸奨	自己都合	合計
人数	0	2	36	38

5 職員研修

(1) 基本研修（開催回数21回・受講者数476人）

研修名	回数	受講者数
採用時研修Ⅰ	2回	49人
採用時研修Ⅱ	2回	44人
任期付職員フォローアップ研修	4回	104人
初級研修Ⅰ	2回	47人
初級研修Ⅱ	1回	26人
新任主任研修	1回	23人
主任研修	3回	56人
新任監督者研修	1回	10人
管理監督者研修	1回	69人
契約職員研修Ⅰ	2回	26人
契約職員研修Ⅱ	1回	11人
契約職員研修Ⅲ	1回	11人

(2) 特別研修（開催回数7回・受講者数177人）

研修名	回数	受講者数
安全運転講習	2回	35人
権利擁護研修	1回	31人
カスタマーハラスメント対策実践研修	2回	43人
職員交流研修	1回	24人
実践報告会	1回	44人

6 財務管理

社会福祉法人会計基準に基づく会計規程により、適正な財務管理に努めたほか、予算・決算の開示による透明性の確保を図った。

また、透明性・競争性を確保するため、業務委託及び物品購入等に関する入札を実施した。

2 上里学園

入所児童が安全で安らぎのある生活が送れるよう養護するとともに、自立に向けた支援を行った。被虐待児など心に傷を負った児童に対して、精神科医や臨床心理士等による心のケアに努めた。また、地域との積極的な交流を行うとともに、実習生やボランティアの受入れを行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況 (人)

定員	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		140	入所	0	0	0	0	1	1	2	1	1	1	1
退所	2		1	0	1	0	1	0	0	0	1	2	10	18
在所	109		108	108	107	108	108	110	111	112	112	111	108	—

(「在所」は、各月末の児童数)

(2) 一時保護の状況 (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規受入 人数	1	2	1	2	0	0	0	0	0	2	1	1	10
一時保 護 児童 数	1	2	2	4	2	2	0	0	0	2	3	2	20
延人日 数	7	4	35	78	62	60	0	0	0	19	57	26	348

※4月は3月からの継続を含む。

(「一時保護児童数」は、当該月に保護した月間の児童数)

(3) ショートステイ事業の受け入れ

実人数	延べ日数
3人	26日

2 利用者支援

(1) 児童一人ひとりの児童自立支援計画を策定し、児童相談所・学校・医療機関等関係機関と連携して児童及び保護者に対して支援を行った。

措置機関(児童相談所)別受託状況

令和6年3月31日現在(人)

	中央	南	川越	所沢	熊谷	越谷	草加	さいたま市	計
人数	8	10	23	25	18	11	11	2	108
比率	7.4%	9.3%	21.3%	23.1%	16.7%	10.2%	10.2%	1.8%	100.0%

(2) 児童の自立に向けた支援

ア 社会・就労体験事業

施設周辺の協力企業と連携した児童の会社見学及び職場体験、アルバイトを通じた就労体験及びそれに対する助言指導を行った。

職場体験参加児童数	参加延べ日数	受入企業数
6人	10日	4社
会社見学参加児童数	アルバイト助言・指導人数	
13人※	9人	

※県主催のリアル体験教室参加も含む。

イ 児童自立サポーターズによる就職・進学支援事業

地域の経営者等で構成するサポーターズの協力により、模擬面接及び社会人としての心構えの指導などを行った。

模擬面接実施人数	「社会人(進学含む)の心構え」指導人数
6人	6人

ウ 就職・進学状況

学 年	人 数	進路状況
中 3	10人	・全日制高校 8人 ・特別支援学校 2人
高 3 (特別支援学校)	6人 (0人)	・就職 3人 ・進学(専門学校) 3人

(3) 退所児童に対するアフターケア

自立支援担当職員を中心に退所後の児童の状況把握、相談や課題解決等の支援を行った。

相談者	アフターケア実施内容						計	合計
	電話	来園	勤務先 訪 問	家庭 訪問	メール LINE 等	手紙等		
退所児童(本人) (74人)	113	42	2	8	344	59	568	783
本人 以外	保護者	48	1	0	0	0	7	
	児相	55	0	0	0	0	3	
	職場	9	0	0	0	0	0	
	その他	80	0	0	0	0	12	

(4) 心理ケアの実施状況

被虐待児や心的外傷を受けた児童について、精神科医受診及び臨床心理士、心理担当職員による心理ケア等を行った。

区 分	実人数	延べ回数	職員への助言・指導
医 師	26人	180回	31回
臨床心理士等	39人	504回	103回

(5) 家族宿舍等を活用した自活訓練

高校3年生を対象に、卒園後の一人暮らしをイメージできるよう自活訓練を実施した。

実人数	延べ回数	延べ日数
3人	3回	9日

(6) 健康管理の状況

入所児童の健康管理については、毎朝の連絡会等を通じて児童の健康状態を常時把握するとともに、各種予防接種、定期健康診断を行い、疾病の予防、早期発見、早期治療に努めた。

(7) 地域住民との交流・連携

地域と共に歩む施設として、スポーツ少年団の活動や、ちよっくら体操・グラウンドゴルフの練習場として会場の提供及び児童の絵画作品を用いた「あかりのカレンダー」を製作し配布した。

近隣市町と連携し情報共有をしながら、子育て短期支援事業の受け入れを行い、地域の子育て支援に取り組んだ。

(8) 主な行事の実施状況

年 月	主 な 行 事 内 容
令和5. 4	お花見昼食会
5	端午の節句・各寮行事(バーベキュー等)
7	七夕
8	花火・宿泊行事
10	上里学園祭
11	七五三、サッカー大会(施設内)
12	クリスマス会
令和6. 1	新年会、上里くらぶ
2	節分豆まき
3	ひな祭り・卒園行事、卒園・卒業を祝う会

(9) ボランティアの受入れ

受入延べ人数	主 な 内 容
56人	読み聞かせ、ピアノ、学習等

(10) 実習生の受入れ

区 分	実人数	延べ日数
保育士実習	71人	768日
社会福祉士実習	6人	138日
計	77人	906日

(11) 見学者の受入れ

受入延べ人数
61人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

意見箱を設置し、児童の要望等の把握に努めた。また児童会を実施し、意見の収集を行うとともに、日常的に対話を心がけ細かな要望にも対応するよう努めた。

また、嗜好調査・残菜調査を実施し、児童の好みを取り入れた献立作りに努めるとともに、児童にアンケートを実施し、その結果を基に生活の改善に向け努力した。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

児童の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 児童を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 総合防災訓練、夜間想定訓練などを含め防災訓練を毎月1回実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 不審者対応等の防犯訓練を実施し、緊急時に対応できる体制を整えた。

(4) 危機管理体制の充実

ア 感染症対策

事業継続計画（BCP）を作成し、連絡会や会議等で職員へ周知、感染予防対策を講じた。

イ 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」

寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、セルフチェックなどの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

エ 職員との面談と教育

園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止及び権利擁護に関する研修を実施した。

6 職員の育成

(1) 施設内研修としては、新任職員研修、権利擁護に関する事例検討会、せい教育に関する事例検討会、そだれん研修、CAP職員向け研修、外部講師を招いた園内研修を実施した。

(2) 外部研修としては、LSWに関する研修・性教育に関する研修・リスクマネジメントに関する研修・トラウマケアに関する研修・埵児研の階層別研修等に参加した。

(3) 研修受講後は、より内容の理解を深められるように、また、職員間で共有ができるよう寮会議や職員全体会議の場において、研修報告の機会を設定した。

3 おお里

入所児童が安全で安らぎのある生活が送れるよう養護するとともに、児童の自立に向けた支援を行った。

被虐待児など心に傷を負った児童に対して、精神科医や臨床心理士等による心のケアに努めた。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況 (人)

定員	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		116	入所	1	3	2	1	1	2	0	1	2	0	1
退所	3		2	1	0	0	0	1	1	0	1	1	7	17
在所	94		95	96	97	98	100	99	99	101	100	100	99	—

(「在所」は、各月末の児童数)

(2) 一時保護の状況 (人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新	規	1	1	1	10	2	4	3	1	4	3	5	0	35
人	受													
	入													
	数													
一	時	2	2	3	12	8	10	9	5	10	7	9	4	81
児	保													
	護													
	数													
延	人	15	33	66	120	170	189	144	126	135	159	115	94	1366
	日													
	数													

(「一時保護児童数」は、当該月に保護した月間の児童数)

2 利用者支援

(1) 児童一人ひとりの児童自立支援計画を策定し、児童相談所・学校・医療機関等関係機関と連携して児童及び保護者に対して支援を行った。

措置機関（児童相談所）別受託状況

令和6年3月31日現在 (人)

	中央	南	川越	所沢	熊谷	越谷	草加	さいたま市	計
人数	9	17	19	11	14	12	16	1	99
比率	9.1%	17.2%	19.2%	11.1%	14.1%	12.1%	16.2%	1.0%	100.0%

(2) 児童の自立に向けた支援

ア 社会・就労体験事業

施設周辺の協力企業と連携した児童の会社見学及び職場体験は新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため実施できなかった。アルバイトを通じた就労体験及びそれに対する助言指導を行った。

職場体験参加児童数	参加延べ日数	受入企業数
5人	9日	5社
会社見学参加児童数	アルバイト助言・指導人数	
23人	9人	

イ 児童自立サポーターズによる就職・進学支援事業

地域の経営者等で構成するサポーターズの協力により、模擬面接及び社会人としての心構えの指導などを行った。

模擬面接実施人数	「社会人(進学含む)の心構え」指導人数
4人	4人

ウ 就職・進学の状況

学年	人数	進路状況
中 3	9人	・全日制高校 7人 ・特別支援学校 2人
高 3 (特別支援学校)	5人 (2人)	・進学 2人 ・就職 3人

(3) 退所児童に対するアフターケア

自立支援担当職員を中心に退所後の児童の状況の把握、相談や課題の解決などの支援を行った。

(回)

相談者	アフターケア実施内容						計	合計
	電話	来園	勤務先 訪問	家庭 訪問	メール LINE等	手紙等		
退所児童(本人) (121人)	65	60	0	6	70	182	383	595
本人 以外	保護者	38	0	0	4	3	212	
	児相	43	5	0	0	2		
	職場	0	0	0	0	0		
その他	55	0	0	2	0	60		

(4) 心理ケアの実施状況

被虐待児や心的外傷を受けた児童について、精神科医受診及び臨床心理士、心理担当職員による心理ケア等を行った。

区 分	実人数	延べ回数	職員への助言・指導
医 師	21人	172回	28回
臨床心理士等	69人	799回	367回

(5) 親子訓練棟を活用した自活訓練

高校生を対象に実施し、一人で生活する際の知識や技術の確認を行った。

実人数	延べ回数	延べ日数
16人	16回	46日

(6) ホームステイ事業の状況

家庭生活経験の少ない児童に対し、ボランティア家庭の協力によるホームステイ事業を実施し家庭生活を体験する機会を提供した。

児 童 数	参加延べ日数
3人	10日

(7) 健康管理の状況

入所児童の健康管理については、毎朝の連絡会等を通じて児童の健康状態を常時把握するとともに、各種予防接種、定期健康診断を行い、疾病の予防、早期発見、早期治療に努めた。

また、感染症拡大防止のため、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の検温実施、施設内の消毒などに努めた。

(8) 地域住民との交流・連携

例年では、熊谷市中恩田地区など近隣で開催される行事への児童の参加や地域との共催の納涼祭を行うなど地域住民との交流を積極的に図っているのだが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、感染予防に努めながらの開催となった。

(9) 主な行事の実施状況※感染症拡大防止に留意し、実施。

年 月	主 な 行 事 内 容
令和5. 5	バーベキュー
6	ジャガイモ収穫
8	納涼祭
8	階旅行
11	総合防災訓練
12	大根収穫 餅つき会

- (10) ボランティアの受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数	主 な 内 容
49人	生活支援ボランティア

- (11) 実習生の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
保育士実習	76人	888日

- (12) 見学者の受入れ

受入延べ人数
18人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

児童会の定期的な開催や意見箱の設置、満足度調査、アンケートの実施等を通し、児童及び家族の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

- (1) 工事の実施

A棟外壁改修、厨房トイレ耐震化、B棟防火扉耐震化等改修工事等を実施した。

- (2) 保守点検の実施

児童の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

- (3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

- (1) 児童を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い、安全確保・事故防止に万全を期した。

- (2) 総合防災訓練、夜間想定訓練、地震・水害対策などを含めた防災訓練を毎月1回実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

- (3) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症対策

事業継続計画（BCP）の作成や施設内感染対策の定期的な見直し、必要備品の購入を行い、連絡会や会議等で職員へ周知し、感染予防対策を講じた。

イ 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」

階会議等において情報交換を綿密に行うとともに、職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

エ 職員との面談と教育

園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止及び権利擁護に関する研修を実施した。

6 職員の育成

- (1) 大学と連携し、他の児童養護施設と合同で処遇困難児童等に係る事例検討会を実施した。

- (2) 全体会議において、職員が参加した研修の報告を行うことで研修成果の水平展開を図り、育成に努めた。

4 いわつき

入所児童が安全で安らぎのある生活が送れるよう養護するとともに、児童の自立に向けた支援を行った。

被虐待児など心に傷を負った児童に対して、精神科医や臨床心理士等による心のケアに努めた。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況

ア 児童養護施設

令和6年3月31日現在(人)

定員	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		88	入所	1	3	3	1	1	4	1	3	0	1	1
退所	4		4	2	1	0	1	1	0	0	2	0	7	22
在所	75		74	75	75	76	79	79	82	82	81	82	79	—

イ 乳児院

(人)

定員	月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		9	入所	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	0
退所	2		0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	1	8
在所	6		8	8	6	8	5	5	7	7	7	7	7	—

(「在所」は、各月末の児童数)

(2) 一時保護の状況

ア 児童養護施設

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規受入数	1	1	8	3	0	1	2	2	3	5	1	2	29
一時保護数	1	2	10	6	5	5	5	4	5	7	6	4	60
延人日数	30	40	144	117	145	108	87	77	87	133	97	70	1135

イ 乳児院

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規受入数	0	0	0	1	1	0	3	1	0	1	0	0	7
一時保護数	1	1	1	2	2	1	4	4	2	3	1	1	23
延人日数	30	31	30	58	18	30	75	93	62	34	29	31	521

※4月は3月からの継続を含む。

(「一時保護児童数」は、当該月に保護した月間の児童数)

(3) ショートステイ事業の受け入れ(里親レスパイト含む)

児童養護		乳児院	
0人	延べ0日	2人	延べ14日

2 利用者支援

(1) 児童一人ひとりの児童自立支援計画を策定し、児童相談所・学校・医療機関等関係機関と連携して児童及び保護者に対して支援を行った。

ア 児童養護施設・措置機関(児童相談所)別受託状況

令和6年3月31日現在(人)

	中央	南	川越	所沢	熊谷	越谷	草加	さいたま市	計
人数	15	9	8	14	3	9	9	12	79
比率	19.0%	11.4%	10.1%	17.7%	3.8%	11.4%	11.4%	15.2%	100.0%

イ 乳児院・措置機関(児童相談所)別受託状況

令和6年3月31日現在(人)

	中央	南	川越	所沢	熊谷	越谷	草加	さいたま市	計
人数	0	0	1	1	0	2	1	2	7
比率	0.0%	0.0%	14%	14%	0.0%	29%	14%	29%	100.0%

(2) 児童の自立に向けた支援

ア 社会・就労体験事業

施設周辺の協力企業と連携した児童の職場体験、アルバイトを通じた就労体験及びそれに対する助言指導を行った。

職場体験参加児童数	参加延べ日数	受入企業数
1人	8日	1社
会社見学参加児童数	アルバイト助言・指導人数	
1人	15人	

イ 児童自立サポーターズによる就職・進学支援事業

民間企業OB及び地域の経営者等で構成するサポーターズの協力により、模擬面接及び社会人としての心構えの指導などを行った。

模擬面接実施人数	「社会人(進学含む)の心構え」指導人数
3人	2人

ウ 就職・進学の状況

学 年	人 数	進路状況
中 3	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制高校 2人 ・通信制高校 1人 ・特別支援学校 2人
高 3 (特別支援学校)	7人 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> ・進 学 2人 ・就 職 5人

(3) 退所児童に対するアフターケア

自立支援担当職員を中心に退所後の児童の状況の把握、相談や課題の解決などの支援を行った。
(児童養護施設) (回)

相談者	アフターケア実施内容						計	合計
	電話	来園	勤務先 訪 問	家庭 訪問	メール LINE 等	手紙等		
対象児童(本人) (134人)	241	85	3	32	209	70	640	1,197
本人 以外	保護者	43	4	0	0	11	3	
	児相	77	0	0	0	0	27	
	職場	0	0	0	0	0	0	
	その他	246	1	0	2	12	131	

(乳児院)

対象乳児数	アフターケア回数
35人	117回

(4) 心理ケアの実施状況

被虐待児や心的外傷を受けた児童について、精神科医受診及び臨床心理士、心理担当職員による心理ケア等を行った。

(児童養護施設)

区 分	実人数	延べ回数	職員への助言・指導
医 師	25人	207回	14回
臨床心理士等	38人	982回	83回

(乳児院)

区 分	実人数	延べ回数	職員への助言・指導
臨床心理士	7人	124回	120回

(5) 親子訓練室を活用した自活訓練

高校生を対象に実施し、ひとりで生活する際の知識や技術の確認を行った。

実人数	延べ回数	延べ日数
15人	15回	36日

(6) 健康管理の状況

入所児童の健康管理については、毎朝の連絡会等を通じて児童の健康状態を常時把握するとともに、各種予防接種、定期健康診断を行い、疾病の予防、早期発見、早期治療に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症を含む各種感染症拡大防止のため、職員のマスクの着用を継続し、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の健康チェックと施設内の消毒などに努めた。

(7) 地域住民との交流・連携

ア 地域関係者との連絡会を6月26日に開催した。いわつきの事業計画や地域と連携した活動の推進について意見交換を行った。また、小学校の生徒指導委員会に出席し、学校教諭と児童特性などの共有を図った。

イ 施設のある地区が、スマイルロード（徳力地区あいさつ通り）の整備を行っており、園独自でも「地域清掃」、「挨拶運動」等を通して連携を図った。

(8) 里親に関する状況

ア 里親委託

家庭引取りが難しい児について、児童相談所と連携し里親委託に向けて調整した。令和5年度は乳児院で2名、児童養護で2名の児童がそれぞれ交流を経て里親委託となった。

イ 里親への支援

施設から委託した里親だけでなく、地域の里親等も含めた懇談会を実施し、里親子の生活状況の確認や養育相談に対する助言等を行った。会場は、施設での感染症発生の影響を受けにくく、参加者数の増にも対応可能な場所として、継続して近隣の公共施設（公民館）を活用した。

懇談会実施状況

実施日	参加人数
5月21日	4組8人
7月8日	7組10人
10月14日	4組6人
1月21日	6組11人

(9) 主な行事の実施状況

年 月	主 な 行 事 内 容
令和5. 4	花見
5	鯉のぼり掲揚
7	七夕 棟宿泊旅行&日帰り旅行（7月～8月）
8	埼玉協球技大会（ドッジビー&フットサル） NHK招待行事
9	乳児院お月見
10	乳児院ハロウィン
11	七五三 同窓会（4年ぶり対面） 乳児院遠足
12	クリスマス会、餅つき
令和6. 1	児童会主催ボウリング大会
2	節分 児童会主催ミニ縁日
3	ひな祭り 卒園行事 乳児院遠足

(10) ボランティアの受入れ

※学習と理髪ボランティアを主として、感染症拡大防止に留意し実施した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も、インフルエンザ等が散発したことから、新規については数名の受入れに留まっている。引き続き、受け入れ態勢を整えていく。

受入延べ人数		主 な 内 容
児童養護施設	乳児院	学習・理髪、余暇支援等
111人	18人	

(11) 実習生の受入れ

※管理棟改修工事の予定が入っていたため、1年を通じて宿泊の学生を受け入れ休止とした。

ア 児童養護施設

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
保育士実習	55人	626日
社会福祉士実習	8人	128日
計	63人	754日

イ 乳児院

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
保育士実習	19人	218日

(12) 見学者の受入れ (延べ人数)

児童養護施設	乳児院
174人	174人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

児童会の開催や意見箱の設置、満足度調査、アンケートの実施等を通し、児童及び家族の意向や要望を把握し、リクエストメニューの導入や支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 工事の実施

施設外溝（側溝）の整備、洗濯場屋根の増設、排水ポンプ制御盤交換、居住棟建具交換等

(2) 保守点検の実施

児童の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 児童を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 総合防災訓練、夜間想定訓練などを含め防災訓練を毎月1回実施し、災害予防と安全の確保に努めた。また、乳児院では水防法避難確保計画に基づき、避難訓練を実施した。

(3) 防犯の取り組み状況として、緊急通報システムを継続契約している。防犯訓練については、全体会議で防犯に対する意識向上のための講義を実施した。

(4) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症及びその他感染症に関する対策

県の対応方針や感染状況を踏まえ、園としての対応策をその都度職員・児童に通達した。

イ 日中夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜間リーダー等が日中夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」

棟会議等における情報交換を綿密に行うとともに、児童アンケート、家族会（児童との話し合い）などの機会も利用し、棟職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

エ 職員との面談と教育

管理監督者による全職員との個別面談を実施したほか、権利擁護に関する研修を実施した。

6 職員の育成

- (1) 児童精神科医等を助言者として「事例検討会」を実施した。また、職員を経験年数でグループに分け、座談会や施設内研修を実施した。
- (2) 外部研修については、オンライン形式や対面形式など、内容や研修ニーズを踏まえて参加した。
- (3) 性教育に関する研修として、助産師を講師とした外部研修の受講や相談会を行うとともに、職員同士による座談会等を実施した。

5 花園

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、活動等を通して利用者の社会参加を促進した。

また、短期入所の受入れやグループホームの運営等により在宅障害児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況

(人)

施設種別		性別	定員	前年度末 (R5. 3. 31)	入 所	退 所	年度末 (R6. 3. 31)
障害者支援施設	入 所	男	—	5 8	1	3	5 6
		女	—	4 1	1	1	4 1
		計	1 1 0	9 9	2	4	9 7
	通 所	男	—	8	4	0	1 2
		女	—	4	0	0	4
		計	2 0	1 2	4	0	1 6
計	男	—	6 6	5	3	6 8	
	女	—	4 5	1	1	4 5	
	計	1 3 0	1 1 1	6	4	1 1 3	

(2) 退所の理由

(人)

施設種別		区 分	地域 移行	死亡 (病気)	その他	計
障害者支援施設	入所		4	0	3 (グループホーム) 1 (介護施設)	4
	通所		0	0		0
計			4	0	4	4

(3) 障害支援区分

令和6年3月31日現在 (人)

		区分	男	女	計	割合
障害者支援施設	入 所	6	4 8	3 4	8 2	8 4. 5 %
		5	8	5	1 3	1 3. 4 %
		4	0	2	3	2. 1 %
		計	5 6	4 1	9 7	1 0 0. 0 %
	通 所	6	2	0	2	1 2. 5 %
		5	5	2	7	4 3. 8 %
		4	4	1	5	3 1. 2 %
		3	1	1	2	1 2. 5 %
		計	1 2	4	1 6	1 0 0. 0 %

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況 (他事業所を利用する7人を除く)

(人)

	小ホール班	センター班	農園芸班	リサイクル班	寮内活動	木工(通所)	計
男	0	2 6	7	1 5	7	1 2	6 7
女	1 9	9	0	7	0	4	3 9
計	1 9	3 5	7	2 2	7	1 6	1 0 6

(2) 短期入所

在宅の障害児（者）のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
障害者支援施設	349件	830日

※日中一時支援事業（149件 延べ149日）含む

(3) グループホームの運営

令和6年3月31日現在（人）

名 称	定 員	利用人数
アパートメント花園	7	7
グループホーム小前田	4	4
計	11	11

(4) 健康管理の状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに、定期的に健康診断を実施して疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の検温実施、施設内の消毒などに努めた。（人）

区分	科目									計	
	精神科	内 科	外 科 脳外科 整形外科	眼 科	耳鼻科	婦人科	歯 科	皮膚科 泌尿器科	健康診断		
通 院	1,593	1,999	114	92	23	2	412	46	290	4,571	
内 訳	嘱託医	1,593	1,957	0	0	22	0	412	0	290	4,274
	その他	0	42	114	92	1	2	0	46	0	297
入 院	0	1	3	4	0	0	0	0	0	8	

(5) 主な行事の実施状況※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

年 月	主 な 行 事 内 容
令和5. 5	園内余暇（デザート喫食）
6	園内余暇（七夕行事）
7	園内余暇（デザート喫食）、福祉避難所設置訓練
8	園内余暇（デザート喫食）
9	スポーツ余暇（江南運動公園）
10	ふれあいの集い
11	外出（群馬サファリパーク）、総合防災訓練
12	クリスマス会
令和6. 1	初詣、新年会、書初め
2	節分
3	ひなまつり交流会

(6) ボランティアの受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数	主 な 内 容
40人	余暇支援、お花教室、木工製品制作

(7) 実習生の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
保育士実習	43人	470日
社会福祉士実習	1人	23日
計	44人	493日

(8) 見学者の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数
91人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常的な利用者との関わりや利用者の会、保護者への電話での聞き取り、意見箱の設置、満足度調査、食事の嗜好調査等を通して、利用者及び保護者の意向や要望を把握し支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 総合防災訓練を年1回実施するほか、利用者の障害状況等を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を毎月実施し災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 福祉避難所設置訓練を深谷市防災課との共同で実施した。

(4) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症対策

基本的な感染予防策を実施するとともに、事業継続計画（BCP）を更新し、更新内容を職員へ周知した。また、感染症発生時にBCPに則った対応を行った。

イ 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」

寮会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、寮職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

エ 職員との面談と教育

園長及び副園長が、契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。また、全職員を対象に産業カウンセラーによる訪問カウンセリングを実施した。

6 職員の育成

(1) 新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン研修を中心とした施設内研修を整備し実施した。

(2) 施設入所支援及び通所生活介護に配置する職員に対し、強度行動障害支援者養成研修を受講させた。

(3) 虐待防止への意識向上を図るため、虐待防止関連のDVD視聴、ワークシートを活用したグループワークを中心とした全体研修を実施し、虐待防止への意識付けを行った。また、新規採用職員等を対象にメンター制度を実施した。

6 あげお

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、活動等を通して利用者の社会参加を促進した。

また、コロナ禍ではあったが、短期入所の受入れやグループホームの運営、相談支援事業等により在宅障害児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況 (人)

施設種別		性別	定員	前年度末 (R5. 3. 31)	入 所	退 所	年度末 (R6. 3. 31)
障害者支援施設	入所	男	—	39	3	1	41
		女	—	41	2	2	41
		計	80	80	5	3	82
	通所	男	—	9	2	1	10
		女	—	11	1	2	10
		計	20	20	3	3	20
計	男	—	48	5	2	51	
	女	—	52	3	4	51	
	計	100	100	8	6	102	

(2) 退所の理由 (人)

施設種別		区分	地域 移行	死亡 (病気)	その他	計
障害者支援施設	入所		0	1	2 (特養・有料老人ホーム)	3
	通所		0	0	3	3
計			0	1	5	6

(3) 障害支援区分 令和6年3月31日現在(人)

施設種別		区分	男	女	計	割合
障害者支援施設	入所	6	39	22	61	74.3%
		5	2	15	17	20.7%
		4	0	4	4	5.0%
		計	41	41	82	100.0%
	通所	6	2	0	2	10.0%
		5	4	7	11	55.0%
		4	2	3	5	25.0%
		3	2	0	2	10.0%
		計	10	10	20	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況（令和5年度7月から新体制）重複での在籍あり（人）

	受託加工	手工芸	陶芸	園芸	表現活動	造形活動	機能訓練	野外活動	身体活動	音楽活動	個別活動
	60	8	11	11	52	10	47	29	32	82	31

(2) 短期入所

在宅の障害児（者）のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
障害者支援施設	1, 121件	2, 393日

※日中一時支援事業（576件 延べ576日）含む

(3) グループホームの運営

令和6年3月31日現在(人)

名 称	定 員	利用人数
グループホームあげお	6	5
サテライトあげお	1	0
グループホームひらつか	5	5
グループホームふたつみや	5	4
計	17	14

*「サテライトあげお」は令和6年3月31日をもって廃止した。

(4) 健康管理の状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに定期的に健康診断を実施して、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の検温実施、施設内の消毒などに努めた。

科目 区分	精神科	内科	整形外科	眼科	耳鼻科	婦人科	歯科	皮膚科	外科	救急外来	泌尿器科	健康診断	その他	計
	通院	476	316	48	7	13	3	638	1	0	1	4	203	1
内 訳	嘱託医	378	241	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	637
	その他	98	75	30	7	13	3	638	1	0	1	4	203	1,074
入院	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7

(5) 相談支援事業

障害者相談支援事業及び障害児等療育支援事業を実施し、在宅の障害児(者)を支援した。

ア 障害者相談支援事業

(件)

訪 問	来 所	電 話	計
442	239	2,367	3,048

イ 障害児等療育支援事業

(件)

在宅支援訪問療育等指導	在宅支援外来療育等指導	施設支援一般指導	計
306	168	91	565

※他に上尾市・伊奈町の発達支援巡回事業を幼稚園等16カ所を対象に、延べ52回実施した。

(6) 主な行事の実施状況※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

年 月	主 な 行 事 内 容
令和5. 4	移動動物園
6	キッチンカー招致
7	七夕イベント
8	あげおまつり
9	長寿を祝う会、「第4回あげお作品展～COCORON～」
10	ハロウィンイベント 園外外出(アクアパーク品川)
11	キッチンカー招致
12	年末お楽しみ会、ケーキの会
令和6. 1	新年を祝う会
2	園外外出(いちごの里よしみ)

(7) ボランティアの受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数	主 な 内 容
119人	手工芸、活動ボラ等

(8) 実習生の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
保育士実習	29人	333日
社会福祉士実習	10人	95日
計	39人	428日

- (9) 見学者の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数
172人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常的な利用者との関わりや利用者参加の生活委員会、家族との連絡、意見箱の設置、満足度調査、食事の嗜好調査等を通し、利用者及び家族の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 年1回総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 災害非常発生時の体制構築訓練やトヨクモでの緊急伝達訓練の実施及び備蓄品の整備を行い、災害発生時の即応体制を整えた。

(4) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の対応の改善に応じて新型コロナウイルス感染症対応マニュアルを改正し、全職員へ周知するとともに、ガウン着脱・ゾーニング訓練等を実施し、緊急時の対応に向けて取り組んだ。

イ 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」

部署会議等における情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、部署職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

エ 職員との面談と教育

園長及び副園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

6 職員の育成

(1) 職員の資質向上を図るため、施設内研修（救急法・蘇生法・ボテイメカニクス・クイックファー・虐待防止と身体拘束適正化・倫理綱領と行動基準・権利擁護等）を実施するとともに、外部機関主催の研修についてはWEB研修を活用し、支援・業務及び危機管理等に関する幅広い知識を学んだ。

(2) 適切な支援の提供と業務遂行能力を高めるため、個別支援計画の作成時や支援場面において上位・経験職員による個別指導を実施するとともに、必要に応じて助言・指導が行えるよう個別研修体制を整え、正規職員と契約職員相互の資質向上に努めた。また、施設内研修の充実を図るため施設の中堅職員対象にスキルアップ研修（中堅職員によるあげお改善計画）を実施し、若い職員の意見が実現できるように努めた。